



京都 YWCA

1 2015

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

「多世代・多文化ふれあいコミュニティ」シリーズ公開講座 2

— 孤立・困窮した少女達と向き合う仁藤夢乃さんをお招きして —

「わたしは月25日を渋谷で過ごす、難民高校生でした」

京都 YMCA・京都 YWCA 合同プログラムとして、「難民高校生」の著者で一般社団法人 colabo 代表の仁藤 夢乃さんをお招きし、講演会「ずっと居場所がほしかった —『若者の現状』と『つながりの必要性』—」を開催しました。仁藤さんは、孤立し困窮した少女たちと共に声を上げる活動に取り組んでおられます。会場の京都 YWCA には、金曜の夜にもかかわらず100名近い参加があり、この問題の注目度の高さが伺えました。



講演する仁藤夢乃さん

大人に諦められた子どもたちと JK 産業

ご自身も渋谷での路上生活、高校中退の経験をお持ちの仁藤さんですが、そこに至るまでの経緯は「小さなつますきの積み重ね」だったと言います。父の単身赴任をきっかけに、家族が少しずつすれ違ふようになり、仁藤さんは家にも学校にも居場所をなくし、どのセーフティネットにも引っかからず路上にたどり着いたのでした。

路上でたむろする若者たちに「不良」という印象を持つ人は少なくないでしょう。しかし、彼らは家庭で何らかの困難を抱えていたり、支えてくれる大人に出会えず、それどころか既存の相談機関や学校、周りの大人たちから「裏切られた」と感じたり、配慮のなさに傷ついたり、様々な傷を抱えて路上に出てきているのです。

みなさんは「JK 産業」をご存知ですか。JK とは「女子高生」の略で、「JK 産業」には、女子高生が客をマッサージする「JK リフレ」や女子高生と散歩をする「JK お散歩」などがあります。全国でこのような形態の商売が行われており、少女達の性被害の温床になっているとも言われています。

居場所をなくした少女達は JK 産業につながりやすく、仁藤さんは、JK 産業で働く少女達は貧困層、不安定層、生活安定層に分類できること、また「普通的女子高生」でさえも JK 産業で働いていることを指摘します。その背景として、生活は安定しており学校にも問題なく通っている少女達が、JK 産業のアルバイトを「普通のアルバイト」だと思っている感覚や、関係性の貧困に起因する自己肯定感の低さから「JK 産業の仕事ならわたしにもできるかもしれない」と思う感覚があることを要因として仁藤さんは挙げられました。

「行き場のない女の子が売買春に巻き込まれずに生きていくことのできる社会」の実現に向けて

近年、少女達への買春交渉の場は SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）が中心となり、外から見えにくいものになっています。さらに JK 産業で少女達を売る人々の手口も巧妙化し、彼女達に衣食住の提供や、役割ややりがいを与え「関係性」を構築し、さらには受験勉強の支援など「学習支援」まで行うこともあり、彼女達がますます JK 産業から抜け出しにくい状況を作り出しています。

このように「裏社会」が彼女達への「偽の支援」を充実させる中、同じ社会に生きる大人たちには何が出来るのでしょうか。仁藤さんは、私達に期待することの一つは、信頼できる大人を増やし、少女達がそのような大人にできるだけ出会えるようにすることだと言われました。この講演会を通して、私達が出来ることをみなさんと考え、共有する機会を持つことが出来ました。

(伊原千晶)

Wonderful Sunday Live ～みんなで平和を奏でよう～

11月9日、京都YWCA平和委員会はピースイベント「Wonderful Sunday Live ～みんなで平和を奏でよう～」を開催しました。現在、集団的自衛権の行使容認がなされ、政府による憲法改正への動きが進められています。そうした中で、改めて憲法9条を見つめなおし、平和や戦争について考える機会になればとこのイベントを企画しました。イベントは二部構成としました。

第一部は元米海兵隊員のアレン・ネルソンさんのドキュメンタリー映画の上映でした。ネルソンさんは、アメリカに暮らす黒人達の多くが陥っていた貧困から抜け出すために海兵隊員となり、ベトナム戦争を経験しました。訓練では「お前の仕事は殺すことだ」と教わり、戦地で多くの人を殺めてしまった彼は、その経験を元に「戦争の恐ろしさ」について身をもって感じたことを語る活動を続けました。また彼は、日本国憲法9条の素晴らしさも伝えています。9条をどう使うかは日本人に委ねられている、日本国憲法9条が世界のどの国にもあれば、この世界から戦争はなくなるだろうと言うネルソンさん。もし現行の日本国憲法が形を変え、戦争ができるようになってしまったら、ネルソンさんをはじめとする、戦争で犠牲になった多くの人達の思いが報われないのではないかと感じました。

第二部は河野康弘さんのピアノ演奏会とし、「チューリップ」や、「大きな古時計」を参加者がみんなで合唱し、会場に一体感が生まれました。世界や日本各地を回り、音楽を通じて「平和」を訴えてきた河野さんから出されるメッセージは私達の心に響くものでした。海外にピアノを贈る活動をしている河野さんは、どんなことでも社会を変えるためにできることはあるのだとおっしゃっていました。

参加者の方からは、このイベントに来て良かったという言葉頂きました。今後も平和を創るための活動を継続していきたいと思えます。

(平和委員会 菅谷菜穂)



参加者に語りかける河野康弘さん

サラム居住者とYWCA会員の 交流会を開催しました。

サラム

11月8日午後、9月より開始したサービス付き高齢者向け住宅「サラム」に入居された方々と京都YWCA会員との初めての交流会を開きました。5名の入居者を囲んで、簡単な自己紹介の後、会員手作りのシフォンケーキをいただきながら、会員からのYWCA活動紹介とボランティアへのお誘いの後、懇談タイムをもちました。



入居者の皆さんは今までYWCAに縁のあった人もなかった人もおられますが、お話の中からもそれぞれ独自の経験や趣味をお持ちであることが感じられました。会員からは普段の生活で困ることはないかをお尋ねしたり、これからどんなプログラムがあればよいかや共用の居間をどう活用したらよいかなどを話題に、和やかに歓談しました。入居者間および入居者とボランティアとのつながりを深め、入居された方が少しでも充実した生活を送っていただけるよう、今後もこのような機会をもっていきたいと思えます。

(編集部)

京都YWCAのあみもの教室 梅村マルティナさん



梅村マルティナさんは1987年から日本で生活されています。2002年に南ドイツの実家に帰省された際に一本の毛糸を編み進めるだけで素敵な模様が出来上がる毛糸「オパール」と出会って以来、「オパール」を使った編み物に情熱を注いでおられます。

2006年には「オパール」で編んだ靴下を販売し、収益をアフガニスタンへ送る活動を始められました。また、2011年の東日本大震災の後、毛糸と編み針を避難所に届け、被災地を訪問して避難所の方たちと一緒に編み物をするようになりました。震災の翌年には、仮設住宅の人びとの働く場所として、ニット製品を製造・販売する会社を気仙沼に設立されました。

京都YWCAでは、梅村マルティナさんと編み物を楽しむ「てづくりひろば」を月1回のペースで開催しています。また、2月に催す手作り品展示会(2月16日～21日)ではマルティナさんの作品も展示し、2月20日(金)にはお話を聞く会も開催いたします。詳細は京都YWCA事務所までお問い合わせください。

(編集部)

あじさい寮に新しい留学生を迎えて～交流会～

京都YWCAの本館4、5階は、女子留学生寮「あじさい寮」として2014年9月にオープンいたしました。タイ、中国、台湾、フィンランド、イギリス、アメリカ、オーストラリアとさまざまな国から訪れている15人の女子学生が、それぞれ日本語や日本文学などを1年間または半年間この京都で勉強することになっています。

この留学生一人ひとりに京都YWCA会員・会友が「すけっと」として付いています。「すけっと」は、留学生にできるだけ日本人や日本の生活を知ってもらい、豊かな学びの時間を留学生自身で作りに出していけるように見守り、関心を持ってサポートすることを役割としています。

9月15日に、この「すけっと」と留学生の最初の交流会を行いました。入居したばかりの留学生に、防災の心構えやあじさい寮での生活の仕方をオリエンテーションし、留学生の自己紹介や「すけっと」の紹介を行いました。みなさん日本語が上手で、日本に来

るのはもう4回目だという人たちもいました。行ってみたいところでは、金閣寺、清水寺、伏見稲荷などが挙がっていました。

第2回目の交流会は、11月15日、「のだめカンタービレ～Lesson1, Lesson2」を観る会でした。「のだめカンタービレ」は漫画で人気を博し、テレビドラマや映画にもなった青春コメディで、これなら日本語で見ても楽しめるのではないかと思い企画しました。留学生の中には既に見て知っている人もいましたし、自分で続きを探して見よう、と言っていた人もいました。とにかく、みんなで一緒に声を出して笑うことができたのはよかったですと思っています。

第3回目の交流会として留学生自身が企画したクリスマスパーティーを実施しました。これからも留学生が関心を持っていることを中心に、月1回ぐらいの頻度で交流会を行う予定です。これらが、日本での留学生生活の良い思い出作りの一助となれたらと願っています。

(会館部 安藤いづみ)

シリーズ ～京都YWCA多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり～

ふれあいの居場所「うららかふえ」 ～3カ月が経過して

うららかふえ

うららかふえ運営委員会

鶏とレーズンのワイン煮、春巻き、鯖のカレー煮、ピビンバ、油淋鶏、お麩のチャンプルー、天ぷら、ロールキャベツ、豚肉ピカタ、スペアリブ、チキン南蛮、グリーンカレー、魚の煮付け、エスカベッチ、蓮根ハンバーグ、三色丼、蒸しずし、おでん、クリームシチュー。11月のうららかふえのおもなメニューです。オープンして3カ月経ち、現在、毎日25名から30名近くのお客さまを迎えています。

当初はYWCAのプログラムや委員会に来ている人、会館のサービス付き高齢者向け住宅「サラム」に入居されている方が大半でしたが、現在は外部の方が半分以上になっています。近所に職場のある方や、たまたま通りかかった方のほかに、最初から毎日のように来てくださる常連さんもできました。嬉しいことに、よくおひとりでお来られる方が多くなったという話も聞きました。近隣のKBS京都の社員さんが食べに来られ、ラジオで「安くておいしい」と話してくださったことも客数増加につながっているようです。

月1回ずつ、親・子育て支援活動委員会親子ライブラリーによる「絵本カフェ」、クラス・講座事業委員会による「英語カフェ」も始まり、様々な形でカフェが活用されるようとしています。

カフェ運営を担っているのは、火曜日から木曜日は会員、金曜日は委託、土曜日は京都YWCAのさまざまな委員会です。オープンまでには営業許可申請、衛生管理ルール作り、ボランティア説明会、メニュー協議など多くの作業がありました。開始後しばらくは、担い手の不足やメニュー内容のばらつき、手順の不手際など様々なことがありましたが、現在は良いチームワークができつつあり、安全でおいしいものを出せるように協力して頑張っています。

カフェを継続するためには、まだまだ多くの課題がありますが、お客さまだけでなく担い手もエンパワーされる多世代・多文化ふれあいコミュニティづくりの場として、また居場所として、その役割を豊かにしていきたいと考えています。

今後のプログラム

◎「多世代・多文化ふれあいコミュニティ」シリーズ公開講座 3 — キリスト教の視点から考える — 「共に生きる」思想の実践をめざす意味

キリスト教を基盤にする組織として、多様な人々が活かされる「共に生きる社会」の実践にチャレンジすることの意味を考えたいと思います。

- 日 時：2015年1月31日(土) 14:00～16:00
- 講 師：岡山孝太郎さん(社会福祉法人京都キリスト教福祉会前理事長)
- 場 所：京都YWCAホール
- 参加費：500円
- 申 込：不要

◎ APTチャリティバレンタインコンサート

- 日 時：2015年2月14日(土) 14:00～
- 演 奏：京都弦楽合奏団
- 場 所：京都YWCAホール
- 参加費：1,500円



◎京都YWCA 第93回定期会員集会

- 日 時：2015年3月7日(土) 13:30～16:30
- 『おひとりさまを生きる』DVD上映会 12:00～
※昼食を取りながらの上映会となります。各自昼食をご持参の上、DVD上映会にご参加ください。
- 場 所：京都YWCAホール

ご寄付ありがとうございました。

2014年10月1日から2014年11月30日
寄付者一覧(敬称略、順不同)

一般寄付

菅谷菜穂、伊村喜久子、有田孝子、
浅野久代、松本弘子

各指定寄付

*多世代・多文化ふれあいコミュニティ 事業にむけた改修募金

齋藤和枝、齋藤陽子、(株)田中工務店、
高分子計器(株)、神谷邦子、小寺嘉一、
小寺隆介、小寺麻衣子、俣野尚子、
足立こずえ、小林聡、西原廉太、
西原美香子、青木瑞穂、池上信子、
上村愈巳子、大西澄子、赤峰美鈴、
川端国世、匿名1名

*活動総務

近江八幡ツアー参加者、
ヴォーリズメモリアルチケット

*福島プロジェクト

上村愈巳子、河野康弘、
福島プロジェクト有志

*会館

JTU きょうと今井

*親・子育て支援活動委員会

NPO 京都子育てネット、
親・子育て支援活動委員会有志

*APT

上村愈巳子、神門佐千子、安藤いづみ

*国際委員会

筒井奈都子

*平和委員会

木戸さやか、吉村千恵、弘中奈都子、
カフェフリーデン参加者、ロビー募金、
平和委員会有志、ブクラ有志

*チャリティーイベント企画委員会

神門佐千子

*次世代プログラム委員会

次世代プログラム委員会有志

*ふれあい食堂「うららかふえ」運営委員会

宮武美知子、安藤いづみ

*自立援助ホーム カルーナ

塚原愛幸子、松原千里、上田理恵子、
俣野尚子、大山悠子、倉戸ミカ

*賛助費

吉田繁、内田邦子

クリスマスバザールへのご協力 ありがとうございました!

2014年上半期は京都YWCAの会館が改修工事中だったため、恒例の6月の「あじさいバザール」は開催できませんでした。9月に完成した改修後の会館で初めての「クリスマスバザール」が12月6日に開催されました。多くのご寄付・ご寄贈や、ボランティアの方々のご協力、来場者のみなさまに恵まれ、無事にバザールは終了しました。ご協力ありがとうございました。

入場料収入総額

(東日本大震災への寄付) : 49,200円

バザール協力者一覧(敬称略)

株式会社ユニティー、山田松香木店、
(株)ティ・エム・エス、(株)マイチケット、
西京都共同購入会、じよいはなひろ、飯室商店、
(有)プロジェN、(株)一粒社ヴォーリス建築事務所、
(株)田中工務店、伊那食品工業株式会社、
オニザキコーポレーション、堀部碧、
筒井奈都子、佐々木京子、森律子、吉川文一、
池上信子、松田弥寿子、清水義、高橋正子、
宮武美知子、篠田茜、匿名1名

京都YWCA ホームページが リニューアルしました!

<http://kyoto.ywca.or.jp/>



京都市上京区武者小路通烏丸西入梅屋町 468
電話 075-451-5178 FAX075-431-7215
ホームページ <http://www.aritax.jp>

11・12月/理事会報告

- 京都YWCA平和委員会として「11・3憲法集会」に賛同。
- 京都YWCAブクラが「ガザに自由を!パレスチナに公正な平和を!
《イスラエル・ボイコット》マラソンデモ」に賛同。
- 自立援助ホーム「カルーナ」主催「学習会」(全3回)を1月～3月の間に開催予定。
- 「サラーム」(サービス付き高齢者向け住宅):満室となった。
- 「チェルノブイリ・フクシマのつどい」(3/29)に賛同。

KYOTO YWCA No.524

2015年1月号(1月1日発行)

発行人 上村愈巳子
発行所 公益財団法人京都YWCA
京都市上京区室町通水上ル
電話 (075)431-0351 FAX (075)431-0352
e-mail office@kyoto.ywca.or.jp
URL <http://kyoto.ywca.or.jp>
郵便振替 01080-9-1566
口座名義 (公財)京都YWCA
定価 50円